

当院における FISH 検査の取り組み

兵庫県立がんセンター 病理診断科

梶本 和義

FISH は、Fluorescence in situ hybridization の略で、蛍光顕微鏡下で、細胞核の中の目的遺伝子座を見る方法で、ゲノムマッピング技術に分類される。がん診療における FISH 検査は、組織パラフィン切片や細胞診材料から、病的細胞の遺伝子の増幅や欠失、転座などが可視化できる遺伝子検査であり、その簡便性から 1990 年台から医療の現場に導入されはじめ、がんゲノム医療が普及しつつある現在においても需要の拡大が見込まれる。当院は 2007 年に HER2-FISH 検査を開始し、その後、リンパ腫や白血病、軟部腫瘍、脳腫瘍、中皮腫などの診断や治療方針決定の場面で積極的に活用している。今回、FISH 検査の基本的な行程および当院の経験について説明する。